

# 第3期教育振興基本計画 測定指標・参考指標

○測定指標、・参考指標

教育政策の目標	測定指標・参考指標
(1) 確かな学力の育成<主として初等中等教育段階>	○OECDのPISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルを維持 ・OECDのPISA調査における習熟度レベル5以上(上位層)及びレベル2未満(下位層)の割合
(2) 豊かな心の育成<〃>	○自分には良いところがあると思う児童生徒の割合の改善 ○いじめの認知件数に占める、いじめの解消しているものの割合の改善 ・人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合
(3) 健やかな体の育成<〃>	○子供の体力水準を平成33(2021)年度までに昭和60(1985)年頃の水準まで引き上げる ○朝食を欠食する児童生徒の割合の改善 ○毎日、同じくらいの時刻に寝ている、毎日、同じくらいの時刻に起きている児童生徒の割合の改善
(4) 問題発見・解決能力の修得 <主として高等教育段階>	○学修時間の充実等、学生の学修に対する取組・態度の改善
(5) 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成<生涯の各段階>	・進路について将来の仕事に関することを意識する高校生の割合
(6) 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進 <〃>	○地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合の改善 ○地域の行事に参加している児童生徒の割合の改善 ・保護者や地域の人との協働による取組や活動が学校の教育水準の向上に効果があると思う学校の割合
(7) グローバルに活躍する人材の育成	○英語力について、中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上、高等学校卒業段階でCEFRのA2レベル相当以上を達成した中高生の割合を5割以上にする ○日本人高校生の海外留学生数を6万人にする ○グローバルに活躍する人材の育成につながる短期留学生を増加させながら、大学等の日本人海外留学生数12万人を引き続き目指す ○外国人留学生数30万人を引き続き目指していくとともに、外国人留学生の日本国内での就職率を5割とする
(8) 大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成	○修士課程修了者の博士課程への進学率の増加 ・大学発ベンチャーの設立数 ・産学協働による情報技術人材の育成状況
(9) スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成	・我が国のトップアスリートがオリンピック・パラリンピックにおいて獲得する金メダルの数 ・国際的に見た我が国のアスリートのドーピング防止規則違反確定率 ・文化芸術の鑑賞活動をする者の割合、鑑賞以外の文化芸術活動をする者の割合
(10) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	○これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を ①仕事や就職の上で生かしている者の割合の向上、②家庭・日常生活に生かしている者の割合の向上、③地域や社会での活動に生かしている者の割合の向上(後掲)
(11) 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進	○これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を地域や社会での活動に生かしている者の割合の向上
(12) 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進	○大学・専門学校等での社会人受講者数を100万人にする
(13) 障害者の生涯学習の推進	・学校卒業後に学習やスポーツ、文化等の活動の機会が確保されていると回答する障害者の割合
(14) 家庭の経済状況や地理的条件への対応	○生活保護世帯に属する子供、ひとり親家庭の子供、児童養護施設の子供の高等学校等進学率、大学等進学率の改善 ○経済的な理由による大学等中退者・高校中退者の減少 ・大学進学率の地域間格差について、地理的状況、経済的状況、県内・近隣圏域における就職可能性などの要素を総合的に分析して、地域ごとの課題を把握し、対処していくためのフォローアップの手法を開発。
(15) 多様なニーズに対応した教育機会の提供	○幼・小・中・高等学校等において個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成を必要とする児童等のうち、実際に作成されている児童等の割合の増加 ○小・中・高等学校等において通級による指導を受けている児童生徒数の増加 ○学校内外の機関等で相談・指導を受けていない不登校児童生徒の割合の改善
(16) 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等	○現職の教師(特に管理職等)に占める当該学校種類に相当する専修免許状保持者の割合の改善 ○特別免許状の授与件数(特に小中学校)の改善 ○小中学校の教師の1週間当たりの学内総勤務時間の短縮 ○小中学校の教師の1日当たりの事務時間(平均)の短縮
(17) ICT利活用のための基盤の整備	○教師のICT活用指導力の改善 ○学習者用コンピューターを3クラスに1クラス分程度整備 ○普通教室における無線LANの100%整備 ○超高速インターネットの100%整備 ○ICTを活用した教育を実施する大学の割合の改善 ・児童生徒の情報活用能力 ・校務のICT化による教職員の業務負担軽減の効果
(18) 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備	○公立学校施設の長寿命化計画の策定率を100%にする ○緊急的に老朽化対策が必要な公立小中学校施設の未改修面積の計画的な縮減 ○教育研究活動に著しく支障がある国立大学等の老朽施設の未改修面積の計画的な縮減 ○私立学校の耐震化等の推進(早期の耐震化、天井等落下防止対策の完了)
(19) 児童生徒等の安全の確保	○学校管理下における障害や重度の負傷を伴う事故等の発生件数の改善 ○学校管理下において死亡する児童生徒等の数を限りなくゼロにする
(20) 教育研究の基盤強化に向けた高等教育のシステム改革	・大学における外部資金獲得状況 ・中長期計画を策定している私立大学の割合 ・大学間連携に取り組む大学の割合
(21) 日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化	・海外に対する教育事業に参加した日本側の教職員・学生・児童・生徒の数 ・海外に対する教育事業に参加した相手国側の教職員・学生・児童・生徒の数 ・日本人学生(高校生及び大学生等)の海外留学生数(再掲) ・外国人留学生数(再掲)

# 第3期教育振興基本計画 指標の状況（概要）

- 各目標において設定された指標の達成状況について以下の通り一覧化。
  - ・順調に進捗又は目標を達成：赤字
  - ・課題あり又は目標に達していない：下線
  - ・横ばい又は今後把握等：文字修飾なし
- 目標の進捗の把握に当たっては、必ずしも指標が目標のすべての進捗状況を測るものとはなっていないこと、施策群の中で指標に直接は反映されないものがあることなど、一概に指標の達成状況により計画全体の進捗が把握されるものではないことに留意が必要。

(1) 確かな学力の育成<主として初等中等教育段階>	OECDのPISA調査等においては日本の子供たちは世界トップレベルの水準を維持。ただし、読解力の平均得点は前回調査から低下。
(2) 豊かな心の育成<〃>	子供たちの自己肯定感 <small>は</small> 小学校で横ばい、中学校でやや改善傾向。いじめの認知件数に占めるいじめの解消しているものの割合は低下。
(3) 健やかな体の育成<〃>	子供たちの体力水準は、目標とする昭和60年の水準と比較して、一部の種目を除いて低い状況。
(4) 問題発見・解決能力の修得<主として高等教育段階>	大学生の授業外学修時間は、令和2年度はそれ以前と比較して増加。
(5) 社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成<生涯の各段階>	進路について将来の仕事に関することを意識する高校生の割合は、全体として微増（計画期間外の数値）。
(6) 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進<〃>	地域において子育ての悩みや不安を相談できる人がいる保護者の割合は低下、地域の行事に参加している児童生徒の割合は横ばい。
(7) グローバルに活躍する人材の育成	中学生・高校生の英語力は目標には達していないものの改善は進んでいる。高校生・大学生の海外留学は、増加傾向にあり、一部目標を達成したが、新型コロナウイルス感染症の影響により直近の海外留学生数は激減した。また、外国人留学生数については目標を達成したが、同じくコロナの影響により直近の留学生数が減少した。
(8) 大学院教育の改革等を通じたイノベーションを牽引する人材の育成	修士課程修了者の博士課程等への進学率は若干増加したものの、中期的なトレンドとしては低下傾向。大学等発ベンチャーの設立数は増加傾向にあると考えられる。
(9) スポーツ・文化等多様な分野の人材の育成	スポーツ分野では2021年東京夏季オリンピック競技大会において過去最多の金メダルを獲得するとともに、若い世代が活躍。また我が国のアスリートのドーピング防止規則違反確定率は低下傾向。文化芸術分野では、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、文化芸術の鑑賞等の活動が減少。

1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

2. 社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する

# 第3期教育振興基本計画 指標の状況（概要）

(10) 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を仕事や就職の上で生かしている者の割合、及び家庭・日常生活に生かしている者の割合はともに向上。
(11) 人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進	これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能や経験を地域や社会での活動に生かしている者の割合は減少。
(12) 職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進	大学・専門学校等での社会人受講者数は平成29年度までは増加傾向にあったが、平成30年度から減少。
(13) 障害者の生涯学習の推進	学校卒業後に学習やスポーツ、文化等の活動の機会が確保されていると回答する障害者の割合は約3割。障害者のスポーツ実施率は上昇傾向であるものの、一般の成人と比べると下回っている。
(14) 家庭の経済状況や地理的条件への対応	児童養護施設やひとり親家庭、非課税世帯の子供の大学進学率が向上するとともに、経済的な理由による大学等中退者の割合・高校中退者数が減少。
(15) 多様なニーズに対応した教育機会の提供	特別支援教育の個別の指導計画等の作成を必要とする児童等のうち実際に作成されている児童等の割合、及び小・中・高等学校等において通級による指導を受けている児童生徒数は増加。学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の人数は増加しているが、その割合は減少。
(16) 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制の整備等	現職の教師（特に管理職）に占める専修免許状保持者の割合及び特別免許状（特に小中学校）の授与件数は増加傾向。教師の時間外勤務は一定程度改善傾向。1日当たりの事務時間（平均）は令和4年度調査で把握。
(17) ICT利活用のための基盤の整備	GIGAスクール構想により、学校のICT環境整備が飛躍的に進み、児童生徒一人当たりの学習者用コンピュータ数が大幅に改善。普通教室におけるLANの整備状況や超高速インターネットの整備率も改善。教師のICT活用指導力も上昇傾向。大学のICTを活用した教育の実施割合が大幅に増加。
(18) 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備	公立学校や国立大学等における計画的な老朽化対策が着実に実施。長寿命化計画の策定は一部に未策定の地方公共団体があるものの概ね順調に進捗。私立学校については耐震化等が着実に進んでいるが未だ課題あり。
(19) 児童生徒等の安全の確保	学校管理下における死亡事故は令和2年は減少したもののゼロには至っていない。負傷・疾病のうち障害を伴う事故数は横ばい傾向。
(20) 教育研究の基盤強化に向けた高等教育のシステム改革	国公私立大学の寄付金受入額は増加傾向。中期的な計画は大学・短大・高専を設置する学校法人のほとんどが策定。大学間連携に取り組む大学の割合は増加傾向。
(21) 日本型教育の海外展開と我が国の教育の国際化	海外に対する教育事業に参加した日本側及び相手側の教職員・学生・児童・生徒の数は概ね増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数が大きく低下。

3. 生涯学習、活躍できる環境を整える

4. 誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する

5. 教育政策推進のための基盤を整備する



## 0 次期教育振興基本計画のコンセプト

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響とロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化（予測困難な時代） ⇒ 浮き彫りになった課題と学校・教育の役割、学びの変容
- 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出すための教育の実現にむけた個別最適・協働的な学び、学習者主体、「自立」、「協働」、「創造」という基軸の発展的継承
- ⇒ 共生社会の実現、多様な個人と地域や社会のウェルビーイングの実現
- グローバル化、少子化・人口減少の中で、持続可能な社会の発展を生み出す人材の育成
- ⇒ 主体的な社会形成参画、生涯学び続ける学習者、課題の発見・解決のための学びをいつでも受けられる環境整備
- デジタルトランスフォーメーション（DX）を教育・学習全体の中に組み込む

これを通じたSociety 5.0の実現

## I 我が国の教育をめぐる現状と課題

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

▶ 教育振興基本計画は、予測困難な時代における我が国の教育の方向性を示す**羅針盤**となるもの

### 第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善と支援スタッフの充実
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、認証評価のための法改正、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や長寿命化、耐震化の実施 等

### 第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな人的交流の減少や体験活動の停滞
- ・いじめの重大事態の発生件数や児童生徒の自殺者数の増加
- ・学校における長時間勤務や教師不足 ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷 ・教育改革に対する大学間の取組差、博士課程進学率の低さ 等

### 社会の現状や変化への対応

- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性） ・グローバル化・地球規模課題 ・少子化・人口減少や高齢化 ・新型コロナウイルス感染症、学校の福祉的役割
- ・国際情勢の不安定化 ・共生社会・社会的包摂 ・社会のDXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素） ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング） ・18歳成年・こども基本法 等

## II 今後の教育政策に関する基本的な方針

- ・誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す学びを日常の教育活動に取り入れることにより、一人一人のウェルビーイングを向上
- ①日本型ウェルビーイングの向上・共生社会の実現に向けた教育の推進
  - ・子供が抱える課題が多様化・複雑化する中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実やマイノリティの子供の強みに着目するエンパワメントの視点により、**多様性、公平・公正、包摂性（DE&I）**ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
  - ・調和と協調ある日本型ウェルビーイングとして「主観的な幸福感」「開放的協調性と多様なつながり」「自己肯定感と自己実現」を重視
  - ・教師のウェルビーイングの確保、社会教育を通じた地域コミュニティを基盤としたウェルビーイングの実現
  - ・組織の境界を越えた学び合い、風通しの良い組織形成を重視し、**同調圧力への偏りから脱却**
- ②グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
  - ・気候変動などの**地球環境問題**や都市と地方の格差などの**社会課題の解決**を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**に向けて、「**人への投資**」が必要
  - ・グローバル化が進展する中で、**持続可能な社会の創り手**の育成に向けて、**留学等国際交流活動**や大学等のグローバル化、外国語教育の充実、SDGsの実現に貢献するESD等を推進
  - ・主体的**社会参画意識**の醸成や、**デジタルやグリーン等の成長分野**の人材育成に向けて、課題解決型学習やキャリア教育、探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
  - ・**人生100年時代**のマルチステージにおける、学校における学びの多様化や**リカレント教育**の推進
- ③地域や家庭で共に学び支えあう社会の実現に向けた教育の推進
  - ・社会教育を通じた**持続的な地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等**の社会教育施設の機能強化や**社会教育人材**の養成と活躍機会の拡充
  - ・**コミュニティ・スクール**と**地域学校協働活動**の一体的推進、家庭教育支援の充実による**学校・家庭・地域の連携強化**
  - ・**生涯学習**を通じた**自己実現**、地域や社会への貢献等により、**高齢者を含むすべての人のウェルビーイング**を向上。**障害者の生涯学習機会**の拡充に向けた取組推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
  - ・**DXに至る3段階**（電子化(Digitization)→最適化(Digitalization)→新たな価値(DX)）において、当面、第3段階を見据え、そのイメージを持ちながら、**第1段階から第2段階への移行**を着実に推進
  - ・教育データの標準化、基盤的ツールの開発・活用、**教育データの分析・利活用**の推進
  - ・各学校段階に応じ、**情報活用能力の育成**、校務DXを通じた教育データ利活用・働き方改革、教師のICT活用指導力の向上等、GIGAスクール構想、DX人材の育成等を更に推進
  - ・デジタルの活用と併せて**リアル（対面）活動も不可欠**、学習場面等に応じた最適な組合せ
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話
  - ・**経済的・地理的状況によらない学び**の確保、**指導体制・ICT環境**等の整備、学校における働き方改革の更なる推進、**NPO・企業等多様な担い手**との連携・協働、安全・安心で質の高い教育研究環境等の整備、児童生徒等の安全確保
  - ・**各関係団体・関係者（子供を含む）との対話**を通じた計画の策定等

# 参 考 资 料